

知的資産の電子的な保存・活用を支援する ソフトウェア技術基盤の構築

(平成20年度予算額160百万円)
平成16年度～平成20年度

目的： ユビキタス社会の中で、人々が専門的な知識や技術を継続的に学習できる環境を実現するために、誰もがいつでもどこでも教育、文化・芸術に触れられる環境を実現することを目的として、そのために不可欠なコンテンツの創製を目指す。

研究開発の趣旨及び効果：

大学等が持つ研究ポテンシャルを最大限に活用し、教育、文化・芸術分野における知的資産の電子的な保存・活用等（デジタルアーカイブ化）に必要なソフトウェア技術基盤の構築のための研究開発手法を推進することにより人々の教育、文化・芸術に触れる機会は大きく増大し、そこに新たな関連市場の創出が期待できる。

研究開発の概要：

デジタルアーカイブを作成・活用するためのソフトウェア技術の開発

【研究開発領域】文化財のデジタル・アーカイブ化

●大型有形・無形文化財の高精度デジタル化ソフトウェアの開発

(京都大学 松山隆司教授)



●伝統舞踊の3次元映像アーカイブに関する研究

(東京大学 相澤清晴教授)

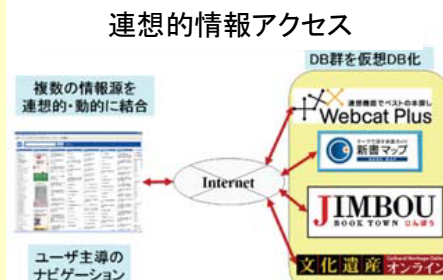
【研究開発領域】教育機関向けデジタルアーカイブ利用システム

●異メディア・アーカイブの横断的検索・統合ソフトウェア技術

(京都大学 田中克己教授)

●自発的学びを育む連想的情報アクセス技術

(国立情報学研究所 高野明彦教授)



豊かなコンテンツに囲まれた 高度な知識社会の実現



誰もがいつでもどこでも
気軽に教育、芸術・文化に
触れられる環境